

# 下北圏域における医療体制の特徴

- ・ 各病院・診療所は、下北圏域の全市町村が参画する一部事務組合「下北医療センター」が開設者である。
- ・ これは、医師不足を打開しようと昭和40年代に、県が方向性を打ち出した「吉田試案」に添って、医療機関のネットワーク化・開設者の一元化を図った結果である（メイン病院とサテライト医療機関）。

しかし・・・

実質が伴わず、上手く機能しなかった。

# 下北地域における医療機能再編

(下北地域は昭和40年代から既に深刻な医師不足であった)



常勤医がいる診療所



診療所からの医師派遣によって運営されている診療所

# 県と下北地域のコラボレーション

- ・ 臨床研修制度の発足に際して、むつ総合病院が研修指定病院となって、むつ総合病院への円滑な医師還流システムを構築する。
- ・ 持続可能性の薄い医療機関は、病院から診療所への転換を図る。
- ・ 大間病院の医師負担を軽減するため、近隣の診療所を休廃止し、大間病院に医師を集約する。
- ・ 自治医科大卒の総合医と弘前大学派遣の専門医との壁を取り払うため、意識的に県は自治医科大卒医師をむつ総合病院に派遣する。
- ・ へき地医療を守るために、むつ総合病院と大間病院は、開拓集落の診療所へ定期的に医師を派遣していく。
- ・ むつ総合病院は、定期的に大間病院等を支援していく。

# むつ総合病院の概要

(平成19年度実績)

病床数：486床 (一般376床、精神科106床、感染4床)

職員数：医師：59名(うち研修医15名)

看護師等：346名、その他職員：約220名

外来患者数：321,458 (1,312人／日)

救急外来患者数(時間外患者)：14,180 (38.7人／日)

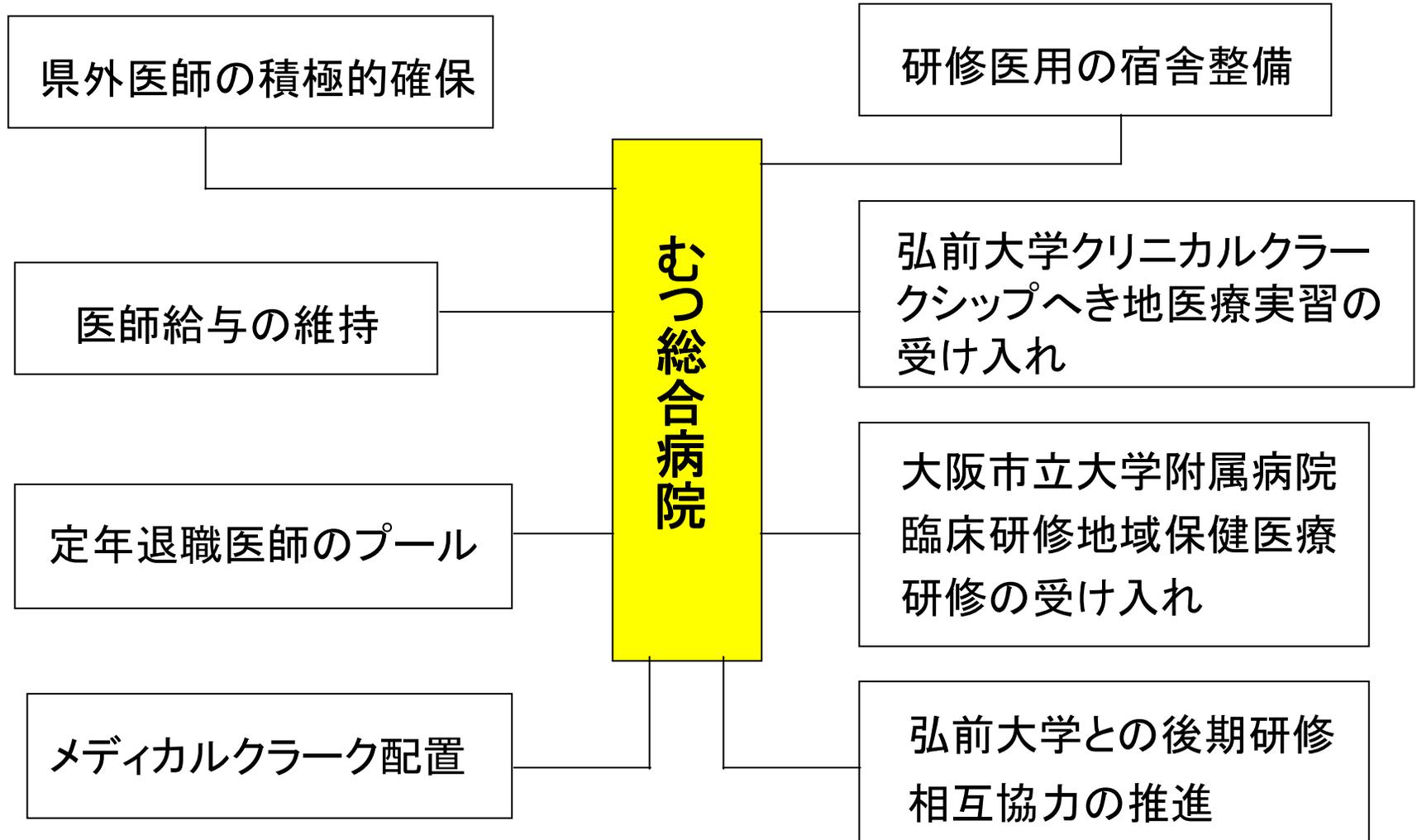
救急車による患者数：2,276(人) (6.2人／日)

入院患者数：146,351人(399.9人／日)

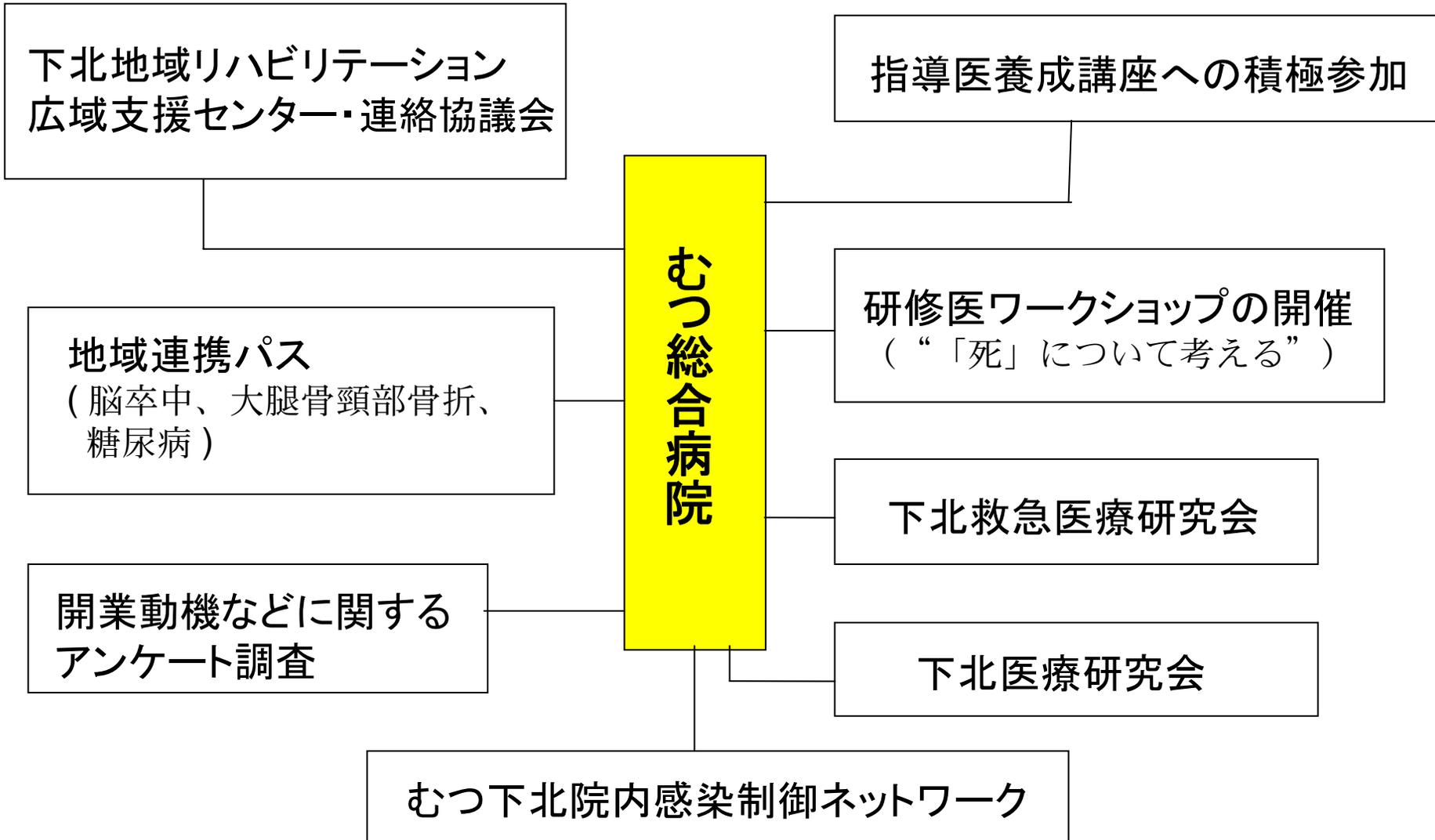
在院日数：21.03日(一般17.25日)

病床利用率：88.1%

# むつ総合病院のこれまでの取り組み(1)



# むつ総合病院のこれまでの取り組み(2)



# 病院の基本理念

## 「信頼」される病院になる

### 基本方針

1. 良質な医療の提供に努める
2. 満足度の高い医療に努める
3. 安全・安心な医療に努める
4. 挨拶と笑顔、心のこもった接遇に努める
5. 健全な病院経営に努める

下北の医療を、医師にとって魅力のあるものにしていくために、  
当病院に課せられたミッションは、  
大変重いものがあります。

しかし、これを、逆に励みにし、  
たゆまぬ努力をしていきたい……

# 医師確保のための将来ビジョン(私見)

## 医師不足問題について

- ・不足(足りない) → 充足(造る)
  - ・GPの養成
  - ・専門医
- ・有効利用 → 負担軽減
  - ・医師でなくてもできることはどんどんスタッフに委譲する
  - ・認定看護師 ・専門看護師.....
  - ・臨床工学士、その他技師(士)の養成

## 医師法改正(革命的変革)

### 予防医療政策の強化

- ・予防 (がん、心筋梗塞、脳血管障害) → タバコ問題
- ・「いのち」にもっとお金を！
  - 国民的コンセンサスとして